

2021年度  
事業報告書

2021年 4月 1日から  
2022年 3月31日まで

公益財団法人緑の地球防衛基金

## 2021年度事業報告書

### 〈事業活動〉

#### I 地球上の生態系に深刻な影響を与える森林破壊や砂漠化を防止するための緑の保全・再生に関する調査研究及び活動並びにその推進のための助成事業（公益目的事業1）

##### 1. ベトナム・ラオカイ省環境植林事業

当基金は、2020年4月にベトナム政府との間で覚書を締結し、「ベトナム・ラオカイ省環境植林事業」を開始しました。

上述の覚書の内容は、（1）事業実施期間は2020年4月から2025年3月までの5年間、（2）植林面積は15ヘクタール、（3）植林本数は3万本、（4）植林樹種は馬尾松（ばびしょう：別名タイワンアカマツ）27,000本、カントンアブラギリ3,000本の混種、（5）事業実施計画は1年目に15ヘクタールの植林を実施し、2年目以降に育林及び施肥、必要に応じて補植する、（6）当基金は年間100万円、5年間で最大500万円を限度に資金助成を実施するというものでした。

同事業は、初年度順調に進捗し、2020年8～9月に馬尾松の苗木の植栽、同年10～11月にカントンアブラギリの種子の直播が実施され、予定どおり3万本の植林が終了しました。

2年目を迎えた2021年度も、以下のとおり、事業は順調に進捗しています。

##### （1）苗木等の状況：

苗木等は順調に成長しており、2022年1月現在、馬尾松の樹高の平均は約1m～1.2mに達し、1.6m程度に育っている木もあります。またカントンアブラギリは、発芽から約1年が経過し、高さが約30cm～40cmに達するなど安定して成長しています。

##### （2）苗木の補植状況：

植林後の活着率は90%以上で、技術設計に示した活着率の水準には達していませんが、損傷した苗木・枯死した苗木に対応して補植作業が行われました。補植樹種・本数は馬尾松約3,000本で、2021年6月に2,000本、10月に1,000本の補植が行われました。

##### （3）除草の状況：

2021年3月、6月、10月の3回、下刈りが行われました。なお、上述の覚書において、「2年目は除草及びまたは（and/or）施肥を行う。」とされていますが、ベトナム側から「苗木の植え付け前に最初の施肥のみが行われ、それ以

降には施肥を行わない」旨の回答がありました。

#### (4) 助成金の交付：

当基金からは、覚書に基づき、2021年4月に100万円の資金助成を実施しました。

なお、ベトナム政府は、新型コロナウイルス感染拡大への対策として厳格な入国管理を実施しており、ベトナムへの入国ができませんでした。今後新型コロナウイルス感染拡大が世界的に落ち着きベトナムへの入国が可能となった際には、本件事業の進捗状況、及びベトナム政府側の今後の対応予定の確認等のため、当基金から現地に役職員の派遣を検討する考えです。

## 2. 中国陝西省榆林市横山県東陽山における日中緑化協力事業

中国での3回目の植林事業となる陝西省榆林市東陽山緑化事業は、2012年11月東京において、当基金と横山県（当時。現在は横山区）との間で、日本の外務、農林水産、環境の各省関係者立会いの下に「造林に関する覚書」の署名・交換が行われました。この覚書に基づき、2013年から2020年までの8年間、横山県東陽山において、25ヘクタール、1万400本の造林が行われ、予定どおり2020年に終了しました。

ただし、事業が終了する当時、中国政府は、新型コロナウイルス感染拡大への対策として厳格な入国管理を実施していたため、当基金からの入国が事実上できず、事業の進捗状況の確認及び終了式典の実施等が未実施のままでした。この状況は2021年度も同様でした。

今後新型コロナウイルス感染拡大が世界的に落ち着き、中国への入国が可能となった際には、記念碑の建立及び式典の開催等に関して改めて中国側と協議を行い、当基金から現地に役職員の派遣を検討する考えです。

## 3. 新たな植林事業の検討

2020年で中国に対する支援が終了し、国内外において、代わりとなる新たな植林事業を検討する必要性が生じています。しかし、2021年度を通して世界的に新型コロナウイルス蔓延が続き、内外の多くの事業が本来の活動を制約されているため、当基金において新たな植林事業を検討することが困難で、見送らざるを得ない状況が続きました。

今後、オミクロン株など新たな変異株の動向次第ではありますが、コロナウイルス蔓延が落ち着き、調査検討が可能と判断される状況になった際には、当基金の新たな支援対象事業の検討を開始する考えです。

## Ⅱ 地球環境の保全に関する調査研究及び活動並びにその推進のための助成事業 (公益目的事業2)

### 1. 2022年度「地球にやさしいカード」の助成団体

SMBCファイナンスサービス株式会社(旧株式会社セディナ)の「地球にやさしいカード」による2022年度助成団体について、2021年8月1日から9月30日までの2か月間、ホームページ等で募集を行ったところ、18団体(新規4団体、継続14団体)から応募がありました。11月に開催した審議委員会において、新規4団体はいずれも委員の評価が低く助成対象としないことで一致しました。また、継続14団体はすべて引き続き助成することで一致しました。その後12月に開催された理事会で、審議委員会決定どおりに可決されました。

2022年度の助成14団体は次のとおりです。

- 認定NPO法人FoE Japan
- NPO法人熱帯森林保護団体
- NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク
- NPO法人立山自然保護ネットワーク
- NPO法人夏花
- 認定NPO法人ヒマラヤ保全協会
- NPO法人サンクチュアリエヌピーオー
- NPO法人桶ヶ谷沼を考える会
- 上総自然学校
- 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金
- 真庭遺産研究会
- 虹別コロカムイの会
- 熱帯林行動ネットワーク
- NPOクワガタ探検隊

(参考) 審査の方法については、提出された申請書類の不備等を先ず事務局において確認しました。各審議委員には4つの審査項目について1点から3点までの評価点(最高で合計12点)を各団体毎に記入してもらい、4人の審議委員の評価点を集計し、審議委員会全体として助成の適否を決めています。

審査集計表（全体）

| No. | 団体名                       | 評価合計 | 助成の認定 |
|-----|---------------------------|------|-------|
| 1   | F o E J a p a n           | 39   | 可     |
| 2   | 熱帯森林保護団体                  | 40   | 可     |
| 3   | 尾瀬自然保護ネットワーク              | 45   | 可     |
| 4   | 立山自然保護ネットワーク              | 39   | 可     |
| 5   | 夏花                        | 34   | 可     |
| 6   | ヒマラヤ保全協会                  | 39   | 可     |
| 7   | サンクチュアリエヌピーオー             | 43   | 可     |
| 8   | 桶ヶ谷沼を考える会                 | 41   | 可     |
| 9   | 上総自然学校                    | 38   | 可     |
| 10  | トラ・ゾウ保護基金                 | 42   | 可     |
| 11  | 真庭遺産研究会                   | 39   | 可     |
| 12  | 虹別コロカムイの会                 | 43   | 可     |
| 13  | 熱帯林行動ネットワーク               | 40   | 可     |
| 14  | NPOクワガタ探検隊                | 36   | 可     |
| 15  | (新規)<br>かせやまの森創造社         | 28   | 不可    |
| 16  | (新規)<br>UAPACAA国際保全パートナーズ | 19   | 不可    |
| 17  | (新規)<br>ひろしま野生動物研究グループ    | 18   | 不可    |
| 18  | (新規)<br>裸足醫チャンプルー         | 24   | 不可    |

2. 「地球にやさしいカード」団体への助成

SMBCファイナンスサービス株式会社の「地球にやさしいカード」の寄付による2021年度助成総額は、14団体、1,009万5700円となりました。

2021年度助成14団体への配分額は次のとおりです。

| 団 体 名               | 助成金額     |
|---------------------|----------|
| 認定NPO法人FoE Japan    | 258万81百円 |
| NPO法人熱帯森林保護団体       | 84万57百円  |
| NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク   | 65万83百円  |
| NPO法人立山自然保護ネットワーク   | 51万75百円  |
| NPO法人夏花             | 77万72百円  |
| 認定NPO法人ヒマラヤ保全協会     | 45万52百円  |
| NPO法人サンクチュアリーエヌピーオー | 64万08百円  |
| NPO法人桶ヶ谷沼を考える会      | 42万24百円  |
| 上総自然学校              | 45万29百円  |
| 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金    | 85万05百円  |
| 真庭遺産研究会             | 27万09百円  |
| 虹別コロカムイの会           | 72万38百円  |
| 熱帯林行動ネットワーク         | 38万01百円  |
| NPOクワガタ探検隊          | 14万80百円  |

また、各助成団体の2021年度の活動は、次のとおりです。

(1) 認定NPO法人FoE Japan (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：パリ協定時代に気候危機に立ち向かう地球温暖化対策強化及びエネルギー政策転換に向けた提言・普及啓発活動)

途上国で起きている気候変動の影響について調査し、気候変動の緊急性を訴える活動や、足元からできる省エネ活動の調査・紹介を行いました。2021年度は、2年振りに気候変動の国際会議COP26が対面で開催されたため、現地で提言活動や記者会見などを行いました。また、高校など内外で講演活動も行いました。さらに、気候変動・エネルギー政策に関する重要法案等の改正があり、積極的に提言活動を行いました。

(2) NPO法人熱帯森林保護団体 (熱帯林を守り育てる事業)

(テーマ：ブラジル・カポトジャリーナ先住民保護区における消火・防火を目的とする消防団事業)

アマゾンの森林焼失面積は、2021年7月までの1年間に13,235キロメートル(前年比22%増)に達するなど、今までに無いスピードで森が消滅しています。カポト・ジャリーナインディオ保護区では、火災から森を守る

目的で、3名のインディオリーダー、約30名の若者による「インディオ消防団」を組織しており、これまでの活動振りはブラジル国内でも高く評価されています。当該団体はこの消防団を支援しており、消火道具、防護服等の物資供与等の支援を行っています。

(3) NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク (尾瀬の自然を守る事業)

(テーマ：自然環境教育事業、尾瀬の自然保護に関する調査研究事業、自然環境保護に関する普及啓発事業)

尾瀬国立公園において、9回の現地活動(延べ38名)を行い、外来植物相調査や野鳥基礎調査を実施しました。また、尾瀬アカデミーを開講し14名のインタープリターが誕生しました。冬期は東京ビッグサイトで「エコプロ」の出展、「ぐんまの自然の今を伝える報告会2021」へのポスター出展など、幅広い自然保護活動を継続実施しました。

(4) NPO法人立山自然保護ネットワーク (立山連峰の自然を守る事業)

(テーマ：立山黒部アルペンルート沿線の外来植物除去事業及び啓発活動)

立山地域の標高1,000m~2,450mの範囲で、オオバコやセイヨウタンポポなどの外来性植物約3万2,000本を除去したほか、約2万4,000本の花茎や花穂を除去して種子散布を防ぎました。長年の努力の結果、外来性植物の繁茂を概ねコントロールできている地点が少しずつ増えています。また、春・秋には富山県内で自然観察会を開催し、啓発活動に取り組みました。

(5) NPO法人夏花 (白保のサンゴを守る事業)

(テーマ：石垣島白保地区におけるサンゴ礁保全活動)

白保海域は世界的にも有名なアオサンゴ群集が広がっていますが、海水温の上昇や赤土の流入によって危機的な状況にあります。今年度は、地元の子どもたちと一緒に、赤土流出対策として畑の周囲に植物を植えるグリーンベルトの植栽活動や、サンゴ調査、ビーチクリーン活動を行いました。また、サンゴや海の状態を観察するため、白保海域に観測点を30ポイント設けて赤土堆積量調査も継続実施しています。

(6) 認定NPO法人ヒマラヤ保全協会 (ヒマラヤの自然を守る事業)

(テーマ：ネパールダウラギリ地方における果樹栽培の持続型アグロフォレストリーの展開)

1974年から半世紀にわたってヒマラヤ山麓で伐採された跡地に山岳部住民と植林活動をしており、2014年には累計100万本の植林を実現しまし

た。2021年は、自然林の減少しているネパール北部ダウラギリ州で10,000本の植林活動を実施しました。さらに、現地で強く要請されている果樹・換金作物栽培（キウイ、レモン、ブルーベリーなど）の栽培指導を行っています。

(7) NPO法人サンクチュアリーエヌピーオー（ウミガメを守る事業）

（テーマ：遠州灘海岸におけるアカウミガメと産卵地の環境保護と調査活動）

アカウミガメの保護調査活動は34年目を迎えました。アカウミガメの保護・繁殖調査や子ガメの観察会を通じて啓発に努めるとともに、プラスチックゴミの回収などビーチクリーンアップを実施して海岸環境の向上に取り組みました。また、海岸浸食を防ぐための海浜植物による砂浜回復事業や、環境教育の推進などにも取り組みました。

(8) NPO法人桶ヶ谷沼を考える会（トンボの保護区を守る事業）

（テーマ：トンボの種の保全と自然環境を守る）

トンボの楽園「桶ヶ谷沼」には、絶滅危惧種ベッコウトンボをはじめ70種のトンボが確認されています。しかしベッコウトンボの個体数調査によると、昨年度23頭、本年度67頭に止まり、絶滅の危機にあるため、特別増殖場の設置・管理など保全と増殖に取り組んでいます。子どもたちに活動を伝える「おけがや自然塾」も5年目になりました、

(9) 上総自然学校（トンボの保護区を守る事業）

（テーマ：トンボの保護区を守る）

里山の保全・育成・改良に取り組んでいます。2021年度は、田んぼの体験イベントを行ったほか、休耕田の一部に水を引いて水深の浅い池を作りました。専門家による生態調査を毎月実施するほか、センサーカメラで常時調査を行っています。夏には夜間調査も行い、千葉県生物多样性センターに報告しています。

(10) 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金（アフリカ象を守る事業）

（テーマ：アフリカゾウ密漁防止）

年間2万頭以上の密猟というアフリカゾウの危機を伝え、象牙のハンコを買わないで、と訴えてきました。今年度は、フランスのリヨンで開催されたワシントン条約常設委員会に登録オブザーバーとして参加し、関係国に国内象牙市場閉鎖を追求することの重要性を働きかけるとともに、会議に先立ち、日本の国内象牙市場に対する規制の実効性を検討した新たな報告書を公表するなど、



国際社会と協調して象牙市場の閉鎖に向けて取り組みました。

(11) 真庭遺産研究会 (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：真庭清流自然学校によるオオサンショウウオの日本最大級の生息地での環境保全活動)

真庭市北部は、広大な面積で「オオサンショウウオ生息地」の指定を受けていますが、個体数の減少が進んでいます。山乗川、植杉川などオオサンショウウオの繁殖地となっている溪流河川において、生息環境調査を進めるとともに、観察会など自然体験型環境学習プログラムを実施することができました。

(12) 虹別コロカムイの会 (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：シマフクロウ繁殖と河畔林造成)

北海道各地に生息するシマフクロウは、開発等により現在約165羽程度に止まり危機的状況にあります。当該団体は、シマフクロウが生存しやすい環境づくりのため、1994年から毎年5月に「シマフクロウの森づくり百年事業殖樹祭」を開催しています。また、西別川の河川清掃や、巣箱の清掃・点検、シマフクロウの餌となる鮭を保護するバイカモ保全活動等にも取り組みました。

(13) 熱帯林行動ネットワーク (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：インドネシアにおけるオランウータン保護活動の基盤強化に向けた植林活動)

2021年度は、インドネシアの現地カウンターパートであるオランウータン保護センター(COP)主導のもと、前年に植樹したラバナシ演習林での生育状況の確認に加え、周辺住民の協力を得て約1,000本の郷土種及び果樹を追加購入し、植樹しました。また、2021年度から着手したタスク村に新設される保護施設周辺において、果樹を中心に約2,000本の植樹を行いました。

(14) NPOクワガタ探検隊 (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：大都市大阪の里山に舞え！未来の森の守り人)

当該団体は、北摂大阪の里山を舞台に、〈共生・畏敬・感謝〉の自然観に基づき、「未来の森の守り人」を育成しています。2021年度は、創作紙芝居の上演や、各家庭で飼育増殖したカブト虫&クワガタ虫を元の里山に返す「カブト虫&クワガタ虫里親飼育塾」を実施しました。また、明治の森箕面特定公園において、地域コミュニティや近畿中国森林管理局と協働して、クヌギの苗木の植樹を実施しました。

### Ⅲ 地球環境の保全に関する普及啓発事業（公益目的事業3）

#### 1. 機関紙（緑の地球新聞）の発行

基金の情報を発信するために、会員等を対象に年4回発行している「緑の地球新聞」を継続発行するとともに、その内容の充実に取り組みました。

緑の地球新聞第152号（2021年4月5日発行）

- 中国東陽山緑化事業 2013年から8年間取り組まれた、25ヘクタール1万939本の植林事業が完了
- 「地球にやさしいカード」助成団体の2021年度の活動予定
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第153号（2021年7月5日発行）

- 順調に生育している馬尾松の苗木とカントンアブラギリの種子  
ーベトナム・ラオカイ省植林事業の現地報告ー
- 減少を続ける世界の森林面積 減少ペースは鈍化ー国連食糧農業機関（FAO）公表ー
- 気候変動問題に関する首脳会議（気候サミット）が開催される
- （コラム）地球温暖化防止に森林が果たす役割
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第154号（2021年10月5日発行）

- 尾瀬の現状と取り巻く課題（第1回）
- 熱帯林行動ネットワークの活動  
ー「地球にやさしいカード」2021年度助成団体紹介ー
- 環境危機時計は9時42分と前年度から5分改善。有識者の危機意識が和らぐ
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第155号（2022年1月5日発行）

- 尾瀬の現状と取り巻く課題（第2回）
- 新年のご挨拶 理事長大石正光
- 2022年度「地球にやさしいカード」の助成14団体決まる
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

## 2. 環境諸問題研究・活動報告書の作成・配布

当基金の目的である「わが国を含め地球上の緑及び緑に依存して生息する野生生物の適正な保護」等に沿って、1年間の研究・活動実績を取りまとめた「2020年度環境諸問題研究・活動報告書」を、2021年6月に作成しました。

写真をカラー印刷にして現地の雰囲気などを少しでも感じていただけるよう工夫するとともに、多くの皆様に活動状況を知っていただくため、会員をはじめ各国立大学図書館などに無料配布を行いました。

### 2020年度環境諸問題研究・活動報告書の内容

- |  |                         |
|--|-------------------------|
| ○ベトナム・ラオカイ省植林事業、<br>3万本の植林が終了                      | (公財) 緑の地球防衛基金           |
| ○中国東陽山緑化事業－2013年か<br>らの8年間、25ヘクタール1万<br>939本の植林が終了 | (公財) 緑の地球防衛基金           |
| ○気候正義を求める運動を広げてい<br>こう！                            | 認定NPO 法人<br>FoE Japan   |
| ○ブラジル、カポトジャリーナ先住<br>民族保護区の「消防団」消火・防火事業             | NPO 法人熱帯森林保護団体          |
| ○尾瀬の豊かな自然を後世に伝える                                   | NPO 法人<br>尾瀬自然保護ネットワーク  |
| ○立山の自然を守るための活動を継続                                  | NPO 法人<br>立山自然保護ネットワーク  |
| ○白保のサンゴを守る   | NPO 法人夏花                |
| ○ヒマラヤ保全協会2020年度活動<br>報告                            | 認定NPO 法人<br>ヒマラヤ保全協会    |
| ○ウミガメの保護と海岸環境を守るた<br>めに                            | NPO 法人<br>サンクチュアリエヌピーオー |
| ○2020年度「トンボの保護区を守<br>る」活動報告                        | NPO 法人<br>桶ヶ谷沼を考える会     |
| ○上総自然学校活動報告2020                                    | 上総自然学校                  |

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| ○ゾウを守るための活動報告2020                           | 認定NPO 法人<br>トラ・ゾウ保護基金 |
| ○シマフクロウを守る                                  | 虹別コロカムイの会             |
| ○日本最大級のオオサンショウウオの<br>生息地における環境保全活動          | 真庭遺産研究会               |
| ○アフリカの「里山」の再生技術の開<br>発試験                    | NPO 法人サヘルの森           |
| ○インドネシアにおけるオランウータ<br>ン保護活動の基盤強化に向けた植林<br>活動 | 熱帯林行動ネットワーク           |

### 3. ホームページによる情報公開

当基金のベトナム・ラオカイ省植林事業をはじめ、中国等における植林活動等の状況などの掲載内容を大幅に更新しました。当基金の運営内容及び財務資料等をインターネットで積極的に公開し、公正で開かれた活動を推進することにより、会員、寄付者をはじめ、国民の植林への啓発にも努めました。

## 〈管理部門〉

### 1. 会員

2021年度は、入会1件（個人1件）に対して退会は3件（個人3件）で、差し引き2件減少し、2021年度末の会員数は132人／団体（前年度末134人／団体）となりました。その内訳は、個人会員117人、法人会員15団体件です。

### 2. 寄付

2021度の寄付は、法人・団体782万9千円（前年度815万1千円）、個人47万9千円（前年度50万7千円）の総計830万9千円（前年度865万9千円）でした。

そのうち、使用済み切手、書き損じハガキ、未使用切手などの物品寄付は107万9千円（前年度127万8千円）となりました。

なお、50万円以上を寄付した法人・団体は、SMB Cファイナンスサービス株式会社、株式会社E C C、ラサ商事株式会社、MS & A Dシステムズ株式会社の4社となっています。

### 3. 理事会の概要

2021年 6月 7日

- 議題 1 2020年度事業報告書案及び同決算書案に関する件
- 報告 1 理事長及び業務執行理事の報告について

2021年 12月10日

- 議題 1 2022年度地球にやさしいカード助成対象団体選定に関する件

2022年 3月 7日（定款第49条に基づくみなし理事会）

- 議題 1 常勤役員の2022（令和4）年度報酬額等（案）に関する件
- 2 2022（令和4）年度事業計画書（案）及び同収支予算書（案）に関する件

### 4. 評議員会の概要

2021年 6月22日

- 議題 1 議長選任の件
- 2 議事録署名人選任の件

### 3 2020年度事業報告書案及び同決算書案に関する件

2022年 3月22日（定款第27条に基づくみなし評議員会）

- 議題 1 常勤役員の2022（令和4年）度報酬額等（案）に関する件  
2 2022（令和4）年度事業計画書（案）及び同収支予算書（案）に関する件

### 5. 審議委員会の概要

2021年11月22日

- 議題 1 議長選任に関する件  
2 2022年度助成対象団体の選定に関する件

### 6. 常勤役員の2022（令和4）年度報酬額等

大石正光理事長の報酬額については、月額35万円年額420万円、賞与額70万円（年2回7月期、12月期に支給）の合計490万円の支給（前年度同額）としました。

### 7. 理事長及び業務執行理事の報告

理事長及び業務執行理事の報告が、2021年6月7日の理事会で行われました。

### 8. 職員の状況

2022年3月末現在、事務局長1人、事務局員1人の職員2人とアルバイト1人となっています。

### 9. 職員の給与

2022年3月末現在、事務局長29万5千円、事務局員20万5千円となっています。

### ＜1年間の主な出来事＞

- 2021年 4月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第152号発行
- 2021年 5月 中旬 「地球にやさしいカード」による2020年度下半期の助成
- 2021年 6月 1日 2020年度環境諸問題研究・活動報告書発行
- 2021年 6月 7日 理事会を開催し、2020年度事業報告書案及び同決算書案を全会一致で可決
- 2021年 6月22日 評議員会を開催し、2020年度事業報告書案及び同決算書案を全会一致で承認
- 2021年 7月 1日 「地球にやさしいカード」による2022年度助成受給団体の募集（受付期間8月1日から9月30日まで）
- 2021年 7月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第153号発行
- 2021年10月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第154号発行
- 2021年11月 初旬 「地球にやさしいカード」による2021年度上半期の助成
- 2021年11月22日 「地球にやさしいカード」による2022年度助成団体選定のための審議委員会を開催

- 2021年12月10日 理事会を開催し、「地球にやさしいカード」による  
2022年度助成団体を全会一致で可決
- 2022年 1月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第155号発行
- 2022年 3月 7日 理事会を開催（定款第49条に基づくみなし理事会）  
し、2022（令和4）年度事業計画書案及び同  
収支予算書案を全会一致で可決
- 2022年 3月22日 評議員会を開催（定款第27条に基づくみなし評議  
員会）し、2022（令和4）年度事業計画書案及  
び同収支予算書案を全会一致で承認

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2022年6月

公益財団法人緑の地球防衛基金